

編集後記

私が所長代理として研究所運営の一部を引き継ぎ、本格的に編集業務を担当することとなって、2回目の本号を刊行いたします。

今回は、愛知県立大学地域連携センターが主催した、一般市民対象の公開講座「環境と資源から見る国際社会: 21世紀の世界と日本」に関連した特集を組みました。愛・地球博開催から10周年に当たる年を迎え、今回は「環境」をテーマにした連続講演会となりました。

地域に貢献する大学であることが求められる今日、本学外国語学部の教員が中心となって、学外講師の方がたのご協力もいただきながら、2015年10～12月の約2か月にわたって断続的に開講された本講座には、地域の市民の方がたを中心にのべ約400人の参加を得て、盛況のうちに終講を迎えました。

この成果をぜひ文献として記録に残したいという思いから、今号の特集が企画されました。とくに、滋賀県知事を退任されて現在はびわこスポーツ成蹊大学の学長になられた嘉田由紀子さんには、今もなお多忙な公務の間をぬって、長久手市の本学で講義をしてくださったほか、講演録に加筆を行って本号に寄稿してくださいました。このほかの方がたを合わせ、合計9名の講義が文字の形で記録に残せたことをうれしく思います。また、講義資料や講演録音、写真などのデータを提供くださり、本号の特集企画の実現にご協力くださいました愛知県立大学地域連携センター関係各位にお礼申し上げます。

世界各地での内戦、テロ、巨大大事故、差別・排斥事件のニュースがやむことがありません。そういう時代だからこそ、多様性への寛容さを培い続ける社会であり、大学であり、また研究機関でありたいと考えています。

最後になりましたが、今年度も、多くの方がたに支えられて研究活動および編集作業を円滑に遂行することができました。とりわけ、本号の完成は本学学務課の山田登志子さんの寄与に負うところが大きく、所員を代表してお礼申し上げます。

2016年3月

愛知県立大学多文化共生研究所

所長代理 亀井伸孝 (外国語学部国際関係学科・准教授)